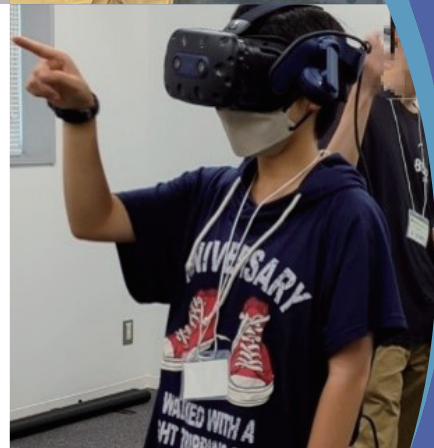


理工系のお仕事体感しよう！理工系に進むとどんなお仕事があるの？

# RIKOCALLENGE SUMMER OF 2024

# 夏のリコチャレ2024

さあ、この夏、ステキな理工系の未来を探しにいきませんか？！



職場見学・仕事体験・女性技術者や研究者との交流など理工系の仕事や将来に触れられるイベントを開催します。  
普段は見られない、ものづくりや建設の現場を見たりステキな理工系女子の先輩の話の聞いたり！貴重な機会です！

**2024年6月～9月まで  
オンライン・全国各地にて開催**



くわしくは内閣府「理工チャレンジ(リコチャレ)」サイトへ

<https://www.gender.go.jp/c-challenge/>

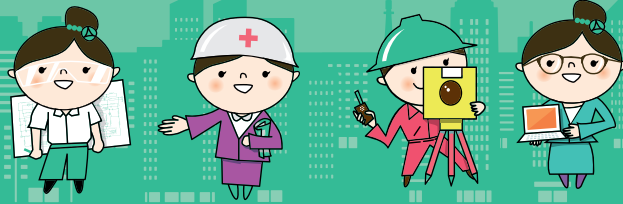
リコ  
チャレ

RIKOCHALLENGE

理工チャレンジ



女子生徒等の理工系への進路選択を応援

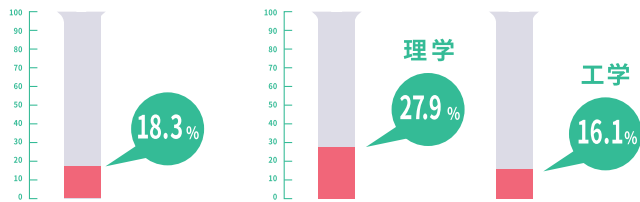


女子中高生・女子学生の皆さんが、将来の自分をしっかりイメージして理工系分野に進路選択(チャレンジ)することを応援する取組を、内閣府男女共同参画局が中心となって進めています。

### 日本の理工系分野の現状

日本の研究者に  
占める女性の割合

専攻分野別に見た  
女子学生の割合(学部生)



出典：総務省「科学技術研究調査」(令和5年)

出典：文部科学省「学校基本調査」(令和5年度)

### 女性の理工系人材が必要です

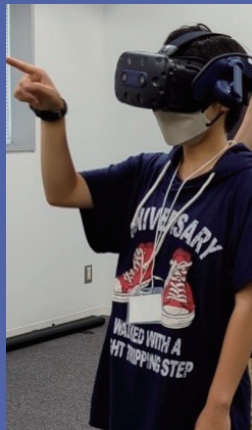
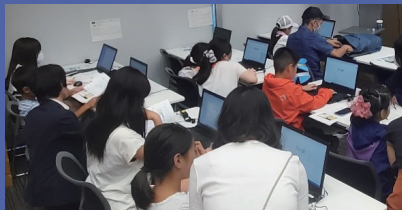
科学技術・学術分野における技術革新(イノベーション)の創出には、多様な視点や発想を取り入れることが不可欠であり、女性研究者・技術者の活躍が期待されています。しかし、特に理工系分野を中心に、女性研究者・技術者の数は低い水準に留まっています。そのため、理工系分野に対する興味関心や理解を向上させる取組を推進し、次代を担う女性の理工系人材の育成につなげます。

### リコチャレイベント

#### 夏のリコチャレ

～理工系のお仕事体感しよう～

夏休み期間に、主に女子小中高生を対象として実施する企業・大学・学術団体等のイベントを取りまとめた発信しています。  
【共催：内閣府、文部科学省、経団連】



職場見学、工場見学、職業体験、実験教室、女性社員との交流、シンポジウム等

2023年開催実績96団体162イベント約6,300名が参加

※夏のリコチャレ以外にも、通年でイベントを発信しています

### リコチャレウェブサイト

#### 理工チャレンジ(リコチャレ)サイト



<https://www.gender.go.jp/c-challenge/>

#### イベント情報



#### 理工系女性からのメッセージ



理学系分野を志した経緯・理由  
理学が大好きで、興味のある分野だったので、理学系分野に進むことに決めました。

現在の仕事(研究)の魅力やおもしろさ  
最新の科学技術や最新の発見が、日々目撃できるのが、とても面白いです。



理工系分野を志した経緯・理由  
将来の夢が、理工系分野にあるので、志すことに決めました。

#### 企業、大学等からのメッセージ



企業からのメッセージ  
女性活躍推進の観点から、理工系分野の女性人材の育成を支援しています。



大学からのメッセージ  
女子学生の理工系分野への進路選択を支援するための取組を行っています。



リコチャレ応援団体・理工系女子応援ネットワーク

理工チャレンジの取組は、趣旨に賛同する産・学・官の団体が連携して進めています。



リコチャレ応援団体

理工チャレンジの趣旨に賛同する大学・企業・学術団体等

約 **890** 団体



理工系女子応援ネットワーク

リコチャレ応援団体のうち、具体的な取組・活動を行っている団体

約 **220** 団体



理工系女子応援ネットワーク会議

- 理工系女子応援ネットワークに登録した団体が出席
- 取組に関する情報共有を通じて相互連携を強化



STEM Girls Ambassadors

女子生徒等が、STEM 関連分野に興味関心を持ち、理工系分野への進路を自分自身の選択の一つとして前向きに捉えることを推進するため、2018年6月、「STEM Girls Ambassadors (理工系女子応援大使)」が立ち上げられました。

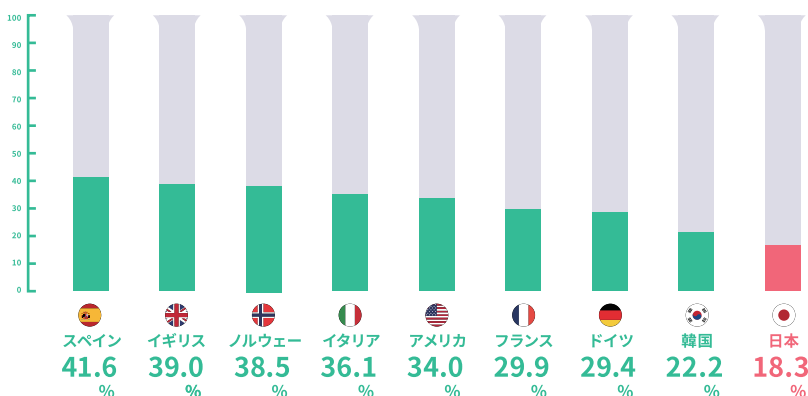


シンポジウム

- 有識者や実際に活躍する女性研究者・技術者（ロールモデル）による情報発信
- 関係団体と連携して開催するなど、社会の理解を促進



諸外国の研究者に占める女性割合



諸外国の研究者に占める女性割合は30%を超える国が増えてきており、それと比較すると日本は低い水準に留まっています。

(備考)  
1. 総務省「科学技術研究調査」(令和5年), OECD"Main Science and Technology Indicators", 米国国立科学財団 (National Science Foundation: NSF) "Science and Engineering Indicators"より作成。  
2. 日本の数値は、2023(令和5)年3月31日現在の値。アメリカ、イギリスは2019(令和元)年値。その他の国は、2020(令和2)年値。推定値及び暫定値を含む。  
3. アメリカの数値は、雇用されている科学者 (Scientists) における女性の割合 (人文科学の一部及び社会科学を含む)。  
4. 数値は2024年1月26日確認時点。